



AGULI



コロナ禍の図書館を振り返る

大学図書館 p.2

特集 先生のお薦め本

分断された世界を構築し直す若者たちに向けて

岸田 一隆 p.3

自分の手でつくる本

庭井 史絵 p.3

GAF Aへのデジタル課税を考える

岩田 伸人 p.4

K先生「条文を引け!手と頭を動かせ!」学生A「それってどうやんの?」

熊代 拓馬 p.4

ついスマホに触れてしまうあなたへ

石井 裕明 p.5

人間は将来データを作り出す部品の1つに成り下がってしまうのか?

シャザディグリ シャウティ p.5

新着図書紹介

p.6~7

図書館広報板

p.8



図書除菌機

コロナ禍の図書館を振り返る

大学図書館

2021年度新学期、ようこそ青山学院大学図書館へ。

図書館の利用にはまだ一部制限がありますが、感染防止対策を講じ安全な閲覧環境を提供しています。「密」を避けてくだされば資料探しや調査に支障はありませんので、学習・研究活動にご利用ください。

一方、コロナ禍の経験から、非来館型の各種サービスも充実させました。授業の受講状況などにより、来館利用と非来館型の利用、この両面から図書館にアプローチしていただければと思います。本稿ではここに至るまでのコロナ禍の図書館を振り返ります。

図書館運営 主に次の3点に留意し、図書館長、分館長と協議のうえ運営した。①大学の指針に基づき、感染拡大防止対策を講じて、利用範囲と条件を決定する。②在籍者（教員・学生）へのサポートに絞り、学習・研究に必要な情報資源と安全な閲覧環境の提供を行う。③施策は慎重に計画、段階的に実施、検証後に拡充する。

卒業生を含む学外者の利用をお断りせざるを得なかった点はお詫びしたい。

図書・複写物の配送サービス 2020年5月以降、本学はオンライン授業と入構制限を継続したため、在籍者向けの支援策として5月半ばより教員に有料配送サービスを開始した。6月には送料大学負担で、大学院生、4年生から段階的に対象を拡大し7月には全学生とした。19,000人を超える学生数、予算、上限冊数と頻度、平等性などを考慮し、1カ月に図書3冊、文献複写5件の条件で実施した。結果、学生だけで延べ約2,100人に対し資料約4,000冊を送り、遠隔地の学生には着払い返送サービスも実施した。



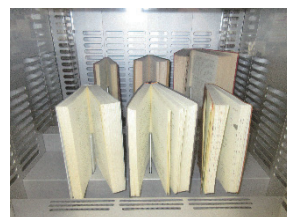
配送準備中の図書

感染防止対策と段階的な図書館利用



飛沫防止ビニール設置の閲覧室

開館に際し、検温、閲覧席の消毒、換気の徹底、飛沫防止パネル・消毒用アルコール・図書除菌機の設置、自動貸出機・返却ポストの利用促進などを行い感染防止に努めた。6月より「事前予約制による限定的な開館」（各回50名の時間入替制）から始め、段階的に対象者と人数枠を拡大し、11月には予約なしの「条件付き短縮開館」に移行した。



除菌中の図書

非来館型サービスの拡充

学術出版社等による電子コンテンツの無料公開の動きがみられたことを受け、図書館ウェブサイト「自宅や学外から使える図書館資料」のページを設け、利用者にオープンアクセスの情報提供や電子コンテンツの学外からの使用方法について改めて周知した。Maruzen eBook Library や KinoDen の試読サービス等を提供し、アクセス数の高いコンテンツを購入するなど、現在も継続的に電子コンテンツの収集を行っている。

さらに、これまで集合型・対面型で実施してきた利用指導は全て非対面型に切り替えた。これにより、オリエンテーションや講習会、個別相談会やレファレンス等は、それぞれの特性に応じた方式とツールを選択しつつオンライン化した。新たな実践には困難も伴ったが、従来の利用指導から時間や空間の枠組みを外すことでもたらされるメリットや可能性を、図らずも認識させられる結果となった。

(青山本館・相模原万代記念図書館)



分断された世界を構築し直す若者たちに向けて

岸田 一 隆
KISHIDA Ittaka

スウェーデンの研究所で乳幼児を対象に行われた実験によると、人間は生まれながらにして利他的であることがわかっています。ただし、同時に行われた実験から、人間が利他的にふるまえるのは、相手が自分と同じ共同体であると認識している時だけだという結果です。すなわち、現在、人類が直面している地球規模の問題を解決しようとするならば、人は「自分の共同体」を可能な限り大きくしなくてはならないのです。

ここで紹介した本の内容は、著者が読売新聞社ワシントン特派員として取材したもので、トランプ前大統領時代のアメリカの様子が描かれています。アメリカには非科学が残っていることは私も知っていましたが、まさかここまでとは思っていませんでしたので、正直言って読み進めながら頭を抱える思いでした。しかも、正しい情報や教育は何の助けにもなりません。教育を受ければ受けるほど、知識が増えれば増えるほど、分断が進むというのですから、教育に携わる人間としては手に負えません。

トランプ政権は終わりました。ですが、分断は世界中に残っています。あなたなら、分断された世界をどのようにすれば構築し直せるか、「自分の共同体」をどうすれば大きくできるか、考えてみてください。



『ルボ人は科学が苦手
—アメリカ「科学不信」の現場から』
三井誠著
光文社 2019年
(青 光文社新 /1003)

(経済学部教授 科学コミュニケーション、文明論)

自分の手でつくる本

庭井 史 絵
NIWAI Fumie

コロナ禍で以前より電子書籍を読む機会が増えた反動か、印刷された本を手にとるとき、その手触りや造作が以前より気になります。紙やインクの匂いを嗅ぎ、ページをめくり、使われているフォントや余白に目をこらす…、本を手にとって読むという行為は、文字を追い、情報を収集する以上の楽しみを読み手に与えてくれるようです。

モノとしての本に向き合う究極の方法は、自分でつくる、つまり「製本」することでしょう。ソフトカバーの本、丸背本、和綴じ本、絵本、豆本を自分でつくったら楽しいと思いませんか。本書は、長野県伊那市にある製本工場「美篤堂」が、様々な本のつくり方をやさしく解説したもので、初めてでも、写真を見ながら一冊の本やノートを仕立てられるようになっています。

美篤堂では、今でも職人がひとつひとつ手で本をつくっており、機械ではつくりえない凝った装丁の本がここで生み出されています。例えば、谷川俊太郎の詩集『せんはうたう』（ゆめある舎、2013年）の表紙は柔らかなフランス装で、本文用紙は、表が白、裏が水色の紙を2つ折りにして綴じられており、ページをめくると内側の青がほのかに透けて、何とも言えない雰囲気を出します。紙の本への関心や愛着がわく一冊です。

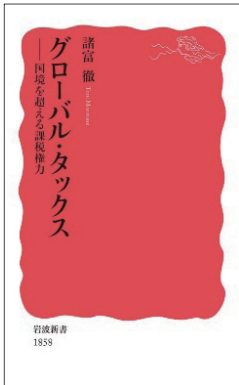


『美篤堂とつくるはじめての手製本 —製本屋さんが見せる本のつくりかた』
美篤堂著
河出書房新社 2016年
(青 022.8/M1-2)

(教育人間科学部准教授 図書館情報学)

G A F A へのデジタル課税を考える

岩 田 伸 人
IWATA Nobuto



『グローバル・タックス
—国境を超える課税権力—』
諸富徹著
岩波書店 2020年
(青 345.1/M13-3
岩波新書 /1858)
(相 345.1/MO77G)

私の専門分野（国際貿易）では、コロナ禍もあり、デジタル貿易の問題が顕在化しています。

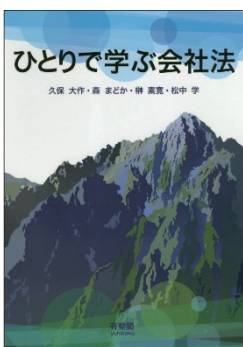
米国のGAF A（グーグル、アップル、フェースブック、アマゾン）に代表される多国籍IT企業が提供している商品は、従来の自動車や農産物などの有形財ではなく、デジタル化された情報やサービスという無形財です。私達は、それら（動画、ゲーム、書籍など）を有料でダウンロードしたり、無償で閲覧していますが、グローバルIT企業が稼ぐ利益の大部分は、私達ユーザーの個人データを無償かつ自動的に収集した大量の情報（ビッグ・データ）を、グローバル企業や広告会社へ“転売”することで生じています。GAF Aの時価総額（約430兆円）は日本のGDP（約500兆円）に匹敵するほどです。

今の国際課税原則では、グローバルIT企業は、現地（日本）に支店や工場が無ければ日本での法人税の納税義務がありません。加えて、当該IT企業は法人税が最も安いアイルランドなどのタックスヘイブン（租税回避国）へ形だけの本社を置くことで、利益を更に大きくできます。コロナ禍で国々の財政が逼迫している中、公平な納税の仕組みが国際機関（OECD）でも検討されています。本書は、そのことをわかりやすく説明しており、お勧めの良書です。

（地球社会共生学部教授 国際貿易）

K先生「条文を引け！手と頭を動かせ！」学生A「それってどうやんの？」

熊 代 拓 馬
KUMASHIRO Takuma



『ひとりで学ぶ会社法』
久保大作ほか著
有斐閣 2018年
(青 325.2/K75-1)

「大学での学びは高校までの学びとは違う」とよく言われる。「大学での学び」の特徴は、未解決の問題に対し（時には問題を見つけ出し）、既存の資料を渉猟・検討し、論理的に主張を組み立て、問題に対する解決策を提示する、またそれを主体的に行うということだが（この点につき横田明美『カフェパウゼで法学を』（弘文堂、2018、青 320.7/Y9-1 相 320.7/Y78K）参照）、1回生の皆さんはピンと来ないだろう。それよりも、日々の学びにおいて問題集が用いられないことに違いを感じるかもしれない。大学入試までの勉強では、チャート式などの問題集を繰り返し解くことで、類似の問題に対処できるようにしてきた一方、大学ではそのような機会はほとんどない。

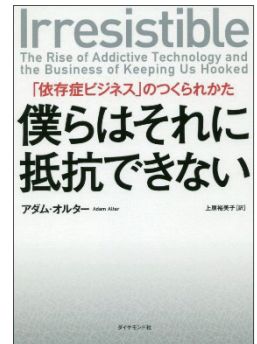
しかし、大学に入ってもなお、こうした勉強法は“ある程度”有用であるし、期末試験などでは問題を解かなければならない。法学部科目（特に実定法科目）では、個別具体的な事案においていかなる問題が生じ、どの法・条文を適用・解釈し、いかに当事者間の利害対立等を解決するかを考えることは極めて重要であり、一連の検討過程は問題集（法学では「演習書」とも言う）で問題を解くことで慣れることができる。本書は、会社法の演習書の一つであり、初学者も扱いやすい工夫がなされている。新たな問題への解決策を考える手始めとして、まずは既知の問題への解決策を既存の法、判例、学説に基づき考える練習をしよう。繰り返し解くことで、様々な問題について法的に考えることができるようになるだろう。

（法学部助教 商法）

ついスマホに触れてしまうあなたへ

石井 裕 明
ISHII Hiroaki

「ふと気づいたら、思った以上に長くネットをしていたことがある。」そんな経験ありませんか。依存症というと、アルコールや薬物などを思い浮かべるかもしれませんが、本書で取り上げられるのは、Instagram や Netflix、インターネット・ショッピングなどへの依存症です。情報技術の発達は、私達の生活を便利にした一方で、こうした新たな依存症の問題を引き起こしました。本書によれば、先進国の人口の半数が行動の依存症、すなわち「行動嗜癖 (behavioral addiction)」に陥っているそうです。冒頭の文章は、本書でも紹介されている「インターネット依存症」を判定するためのアンケート項目の一つです。私を含め、「よくある」と感じた人はインターネットに依存しているのかもしれませんが。著者は、ニューヨーク大学のアダム・オルター准教授。豊富な事例や自らの経験を交えながら依存症に陥るメカニズムを分かりやすく教えてくれます。依存の対象やそれらを提供している企業を批判するのではなく、依存せずに使いこなす道を見出そうというスタンスも共感しやすいのではないのでしょうか。ビジネススクールで教鞭をとりながら心理学を研究する著者の持ち味が如何なく発揮されています。「止められない何か」がある人は是非読んでみてください。



『僕らはそれに抵抗できないー「依存症ビジネス」のつくられかた』
アダム・オルター著
上原裕美子訳
ダイヤモンド社 2019年
(相 493.74/A41B)

(経営学部准教授 マーケティング)

人間は将来データを作り出す部品の一つに成り下がってしまうのか？

シャザディグリ シャウティ
XIAZHATIGULI Shawuti

「将来的には、日本の労働人口の49%がAIやロボットなどで代替可能になる」と言われています。そんな中で世界を襲ったのがコロナウイルスの感染拡大です。感染収束には相当の時間を要し、また、アフターコロナ時代においても「元の世界には戻らないだろう」と予想されています。皆さんも、コロナや将来の仕事などを心配していませんか。そんな皆さんに、イスラエルの歴史学者 Yuval Noah Harari が書いた『ホモ・デウス』をお勧めしたいと思います。

サピエンスは自らを神にアップグレードさせ、「神」になるのではないかというのが、本書の予見する未来です。Harari氏は、「人類は科学技術によって自身の心身を改造して死を克服し、不死に至る。AIによる判断に、より重点を置く「データ至上主義」の時代になると、人間はデータを作り出す部品の一つに成り下がるだろう」と予言しています。

現実生活を見てみると、AIの方が、人間よりも正しく判断できる事例が既に数多くあります。人間が自分で思考するよりも、データが示す通りにした方がより効率良く行動できるとすれば、思考するのをやめてしまっても不思議ではありません。その場合、主体は人間であると言えるだろうか。人類にとっての未来はどんなものだろうか？ 人類の来し方行く末こそ、私たちにとっての最大の謎ではなからうか。この本はそんな色々なことを考えさせられる、大変刺激的な著作です。これからいろいろなことに挑戦する皆さん、是非一度読んでみてはいかがでしょうか。



『ホモ・デウスーテクノロジーとサピエンスの未来』
ユヴァル・ノア・ハラリ著
柴田裕之訳
河出書房新社 2018年
(相 209/H32H/V.1 ~ 2)

(総合文化政策学部助教 社会調査)

新着図書 紹介

2020年度に大学図書館の蔵書となった本をご紹介します。

所蔵館 青山 相模原

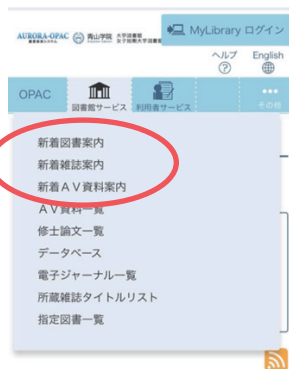
2021年3月時点の所蔵状況です

知っていますか？

新着図書のチェックのしかた

AURORA-OPAC → 図書館サービス

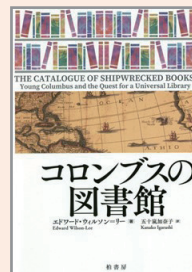
→ 新着図書案内



コロンブスの図書館

エドワード・ウィルソン=リー

誰もが知る探検家、コロンブス。その息子であるエルナンド・コロンは、スペイン・セビーリャに世界最高の図書館をつくりあげた。この本は、ルネサンス、宗教改革、大航海時代の最前線で世界のありとあらゆる情報を集めて目録化しようと試み、書物狂と呼ばれた彼の人生を追ったノンフィクションである。(柏書房 2020年)



青山



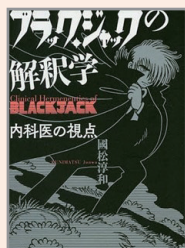
ブラック・ジャックの解釈学

内科医の視点

國松淳和

天才外科医を描いた手塚治虫の名作『ブラック・ジャック』。この作品を愛する内科医が、作中の難病・病態を現代医学の水準で見返す「解釈学」。ちなみに本学所属者は、本書に登場するエピソードを含む手塚治虫の漫画作品がオンラインで読めますよ。(金芳堂 2020年)

図書館HP→データベース→手塚治虫漫画デジタルライブラリ



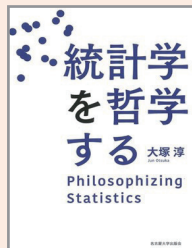
青山



統計学を哲学する

大塚淳

なぜ、統計が科学的知識を正当化するのか？社会調査、ビッグデータ分析やAI開発などに統計学は不可欠だ。本書は、哲学の議論と個別の統計的手法を結びつけ考察している。統計に携わる人が少しだけ哲学者になり、哲学をする人も少しだけデータサイエンティストになる、統計学と哲学の越境の本である。(名古屋大学出版会 2020年)



青山
 相模原



日本国憲法のお誕生

その受容の社会史

江橋崇

日本国憲法の制定にあたっては日本各地で祝賀行事が行われ、普及活動が盛んになった。啓発の一環として作られた数々の国民向けグッズ（紙芝居、レコード、かるた、記念切手等）や映画や文献などを通じて、当時新憲法の意義がどう説明され、どう理解されていたのかを読み解く「もうひとつの憲法物語」。(有斐閣 2020年)



青山



研究者が知っておきたい

アカデミックな世界の作法

国際レベルの論文執筆と学会発表へのチャレンジ
谷本寛治

社会科学系の大学院生やポスドクといった若手研究者に向けて、アカデミック・コミュニケーションの基本を解説した本。論文の書き方や学会での発表の仕方などが丁寧に説明されており、研究職に関心を持つ学部生にも手に取ってほしい。(中央経済社 2021年)



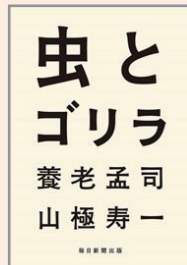
青山



虫とゴリラ

養老孟司、山極寿一

虫研究の大家と猿の専門家が、人間の生活を客観的に外から眺めた対談書。人類が、そして地球が危機に直面している現代だからこそ、お互いの違いを認めて尊重し合う自然を今一度見つめ直し、仲間と自分が違うことを前提として共鳴し合う幸せに、人間も気づこう！(毎日新聞出版 2020年)



相模原



文豪の死に様

門賀美央子

漫画やアニメの影響もあり、ここ数年続く文豪ブーム。本書では樋口一葉、森鷗外、有島武郎、芥川龍之介ら「文豪」10名の「死に様」に焦点が当たっている。人生の最終地点を、現代的な視点で捉え直すことによって、作品同様に多彩な作家の生き様が浮き彫りになっている。(誠文堂新光社 2020年)



青山



科学とはなにか

新しい科学論、いま必要な三つの視点
佐倉統

分かりやすく身近なエピソードを数多く提示し、科学の深層へと誘う一冊。科学とはどのような存在か、科学技術は誰のためのものなのか。歴史的経緯から現代社会と科学技術の関係に至るまで過去・現在・未来の「科学」を広く深く考察しており、各人が科学と付き合う際に必要な視点を培う一助となる本。(講談社 2020年)



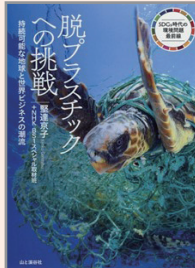
●青山
●相模原



脱プラスチックへの挑戦

持続可能な地球と世界ビジネスの潮流
堅達京子, NHK BS1スペシャル取材班

「なぜストローは紙になったのか」という序章からはじまり、地球規模の海洋プラスチックごみ問題と、気候変動の危機との深い関係、それに対する日本の取り組みなどをわかりやすく紹介した本。いま私たちにできることは何か、危機を食い止めるにはどうすればいいかを考えさせられる一冊。(山と溪谷社 2020年)



●青山
●相模原



来館せずに書架をながめる方法

バーチャルブラウジング

OPACで、気になる本の検索結果画面を出し、右端にある隣の本をクリック



⇒館内の書架で、その本の隣にどんな本が並んでいるかが表示されます

あらたな本と偶然出会えるかも・・・



SDGs

(持続可能な開発目標)

蟹江憲史

最近よく耳にするSDGsとは一体何か、具体的に何をすればよいのか疑問に思ったことはないだろうか。この本では、SDGsの基本的内容や17の目標についてわかりやすく説明している。ポスト・コロナ時代に、企業をはじめ私たちはどう行動すべきか、第一人者の筆者が解説することで理解が進む一冊。(中央公論新社 2020年)



●青山
●相模原



70s原宿原風景

エッセイ集:思い出のあの店、あの場所

中村のん編著

1970年代、「ファッションの街」となった頃の原宿で青春を過ごした人々による時代の証言。先般の図書館アンケートに学校周辺の地域資料拡充の要望があったが、本書は青山に長らく校地を構える本学にとって、最も身近な地域の現代史・文化史を知るための貴重な資料となるだろう。同著者・同テーマの写真集も新収蔵。(DU BOOKS 2019年)



『70's Harajuku』
小学館・2015年

●青山



なぜ台湾は新型コロナウイルスを防げたのか

野嶋剛

新型コロナウイルスに対する台湾の対応は世界から注目を集めた。2020年7月に出版された本書では、スピーディーで集約的な初動対応、水際対策、マスク配給、SARSの経験、そして各方面の専門家からなる蔡政権の布陣や、国際的な立ち位置など、様々な角度から台湾の防疫政策について解説されている。(育鵬社 2020年)



●青山



怪異の表象空間

メディア・オカルト・サブカルチャー
一柳廣孝

明治期における「霊」をめぐる言説、コックリさんや心霊漫画、霊能者や超能力者が入り乱れた1970年代のオカルトブーム、妖怪漫画やライトノベルなどの現代のポップカルチャー。それらを通して論じられる近現代日本の怪異の表象は、著者の言葉通り「それぞれの時空間を映す鏡」だと納得させられる。(国書刊行会 2020年)



●青山



存在しない女たち

男性優位の世界にひそむ見せかけのファクトを暴く
キャロライン・クリアド=ペレス

公共の施設や機関、職場、医療など、様々な場所・場面は何を基準に／誰を想定して設計されたのか。著者は、副題のような観点から、社会の中で「データにおけるジェンダー・ギャップ」がいかに多く見られるかを、豊富なデータと事例によって解き明かしていく。(河出書房新社 2020年)



●青山
●相模原



甘いバナナの苦い現実

石井正子編著
アリッサ・パレデスほか著

普段食べているバナナが辿ってきた道程と一緒に考えよう。その裏にある現地での農業空中散布による健康被害、不公平な多国籍企業。知られざる現実がそこには描かれている。おいしく日常食べているものが届くまでの過程を再考してみることはとても大切だ、と考えさせられる一冊である。(コモンズ 2020年)



●相模原



4月のオリエンテーションのご案内

青山キャンパス

本館 大学図書館オリエンテーション

青山キャンパス所属の学生を対象とした、青山本館のオリエンテーションをオンライン開催します。図書館利用にあたって必要となる基礎知識をお話しますので、新1年生は必ず受講してください。また、コロナ対策、オンラインでできることなど、最新の図書館利用情報が知りたい2年生以上の学生の参加も歓迎します。

内 容 図書館利用案内(1. 図書館バーチャルツアー 2. 利用のしかた) ※ Zoom 利用

開催日時 4/5(月)～4/10(土) 各日とも12:35～13:15 ※各回同一内容です

参加方法 AOYAMA ポータルに配信している Zoom 登録用 URL から、参加希望日に事前登録してください。

※詳細は図書館ウェブサイトでご確認ください。

9号館1階 アカデミックライティングセンター(AWC) ガイダンス/セミナー

● AWC 利用ガイダンス 各回30分間 レポートや論文を書く技術の向上をサポートします!

4/5(月) ①11:00～ ②14:00～ <9号館2階 921教室>

4/7(水) ①11:00～ ②14:00～ <9号館2階 921教室>

4/9(金) ①11:00～ ②14:00～ <17号館3階 17309教室>

● アカデミックライティングセミナー 各回30分間予定

日時、会場は AWC ウェブサイトでご確認ください。

相模原キャンパス(万代記念図書館)

図書館・アカデミックライティングセンターオリエンテーション

【相模原キャンパス所属学部の新1・2年生対象】

Webex を用いたリアルタイムのオンラインオリエンテーションです。図書館の基本的な利用方法や学外から使えるサービス等について説明します。また、レポート作成や今後の文章作成に役立つアカデミックライティングセンターを紹介します。

開催日時 4/5(月)～4/9(金) 各日とも12:40～13:10 ※各回同一内容です

参加方法 AOYAMA ポータル、履修ガイダンス時配付チラシ等でお知らせする URL に当日アクセスしてください。

図書館セルフツアー

好きな時に館内を見て回るだけで、色々な設備やサービスの使い方がわかります。

最後に図書館オリジナルグッズももらえます。

開催期間 3/29(月)～4/10(土) ※日曜は休館

実施時間 9:00～17:00の間でいつでも(所要時間の目安:10～20分)

参加方法 B棟1階図書館入口付近で参加用紙を入手し、用紙に従ってクイズを解きながら館内を巡ります。

オリエンテーション・セルフツアーの詳細はこちら →



*詳細は、図書館ウェブサイトのお知らせをご覧ください。

*4/12(月)からはランチタイムオンラインオリエンテーション『大学図書館活用法』も始まります!

表紙写真(本館地下1階書架)撮影/提供 青山学院大学写真研究部

編集後記

新型コロナウイルス感染症への対応に追われた一年でした。本誌も計画どおりの進行が難しく、合併号でのお届けとなりました。編集委員の先生方をはじめ、関係の皆さまには、イレギュラーな対応にご理解、ご協力をいただきました。この場を借りて感謝申し上げます。感染の状況が早く落ち着くことを祈っています。(図書館長 野末俊比古)

青山学院スクール・モットー 地の塩、世の光 The Salt of the Earth, The Light of the World

青山学院大学図書館報 “AGULI” 第109号 2021年3月31日発行

編集 青山学院大学図書館報編集委員会・大学図書館広報担当

発行 青山学院大学図書館 〒150-8366 東京都渋谷区渋谷4-4-25

TEL.03-3499-1402 FAX.03-3407-4472

https://www.agulin.aoyama.ac.jp/